1946

新撰大学

1946

1946

新増大統波集　淀川トモ号

山陽ノ京極乃集ハ大編

波ハ新撰ノ人ナリ其ハ紀ハ

大ハ大撰ハ蓼ミ云グ

新波ハ連歌ハ云人皇十一代

景行天皇ノ御子日本武尊

ノ御ハ上自ハ歌ハ

ハ連歌ハ始ル人ナリ

近代二條ノ関白ハ新波集

ハ上自ハ歌ハ

ハ書ハ有ル

乃ち家紙ハ有リ連

新古今撰ばれ羇旅と号せられ羇旅
を六連歌といふ人々の家集の題
をかりて又羇旅と云ハ本れきけ
き山の題名あり又常陸国乃
題ふもあり又ハ紫式部天照天神
山山あて紫式部羇旅紙琴紙引物
ふ摩潟の浦波おとふ乃乃声の
やりし嵐よ着たるゝ羇旅
山と号ス

春

碁盤ハ春ハ小春ハきさらぎ
望月ハ春ハ三月

山白ハ今ハ春ハ雪和といふ字入
白雪ハ春ハ同云ふ白雪
も連歌師ハ連歌
乃歌ハ春ハ春ハきさらぎ
春のるれもとれもとへ
ありけるへ　ハ春ハ
を時ハ連歌れたの
連ハ用付同云も
せ山ハ山ハ二月
ある春ハ
いふ集あれ
平用し又
ハ白ハ白

新古今撰歌と号せられ、龍田
を六連歌といふ。家隆の題
もあり又歌枕と詠ぶ六ヶ所
さ山の題名あり又常陸国乃
歌ふもあり。これ天照天神
山山あて紫式部琴歌引給ふ
ふ藤波の浦波あらしの音の
ありし所より着たる歌枕
山と号ス

春

碁盤ハ八ヶ春ハきにくり
巻ハ十ヶ月ハ春ハ

此句今ハ八ヶ畳和といふ字入
色ハ八ヶ月ハ同名ふ名ハ
も連歌師ハ書きしくゆゆ
乃作法ハ八ヶ所ハきに
ものなれまん人ハ
あるべし。
を時ハ連歌ハ
連ハ用ハ同名も
せ山ハ
ふ
いふ集あれ
平ハ
ハ

人の朝顔掘くまとて三日
目に枯やうに。物のしをれあ
させんためにまづきゝ物をも
ゆきこゝろへ侍
もしらせてこそ雪ぬ物うえ
逆に袴肩衣の意のふう
あせてぬりたる衣裳
虚の衣すそはぬ
ぬかゝ腰ぬけ法ある屋敷
あほぶくろ
ぬかひめもうみあれ
ましくすれば
あかぬ行やう解やうに

物うきぬ
目にあれぬ苔
目とまれぬぶさたゆ
鼻へ入あり
きうりのたゝ
洗ものあり
きそ脚布ごとき
しぶうたる脚布洗也
きうりのあぶこ今
うそ物ふきく花
野蒲ぬ俗時
うそひすこ
かいたうりふ俗
形よ立て

雷の声さこそあり榊葉神にと
とあり

雪まだにありぬはげしや榊葉
まのやこそ
あさたうの
やけの榊葉のうんあてこそ
うら冷まお同じ
まれどうう

あれおかしかれ
秋かしの人
こぶ
こくうあ
おとうん

月見おぼくくしたるさ
いや八幡尺の酒小寿
あまこの

ひさかれ花の榊
引せてぶり
さくみうまひ
れし云生の
ぬあり

まつぐ
まつ
あつ
ぬくく

卯月過て花盛あり五月の幸て
稚さくれさいハへ
吹うし風のふてあれうし
花ゑ余こいそ　なをあ[illegible]上て
いここ世ゑ稚所　[illegible]
[illegible]かて行あ　あたらへ
寄あれハあり
愛ゑ間ふ　いろいろ所
花ゑ[illegible]こ　ふ[illegible]
ぬ[illegible]つ[illegible]ん[illegible]
初しやたり　[illegible]中紫
花ゑ風ちろ　[illegible]

紫ゑ京もみ[illegible]
あ[illegible]
[illegible]
青風ふ[illegible]
永日門よた[illegible]
[illegible]の門[illegible]
ふ[illegible]
[illegible]
水ゑ[illegible]
青ふ樹[illegible]
うれハ[illegible]
末よのゑ[illegible]
て付[illegible]

ありあけのつきみんとてうちぬ
四月の菓子にかきはうり
ふるさとにかもとをしも遠ろ年も
宇治の晩稲名物あり

裏

山がつきたるあるにあらず
友はしの宿の花紙よごれ
月やとうふも屋敷ありく人
犯人や神代走ありく術ありり
五条あらにあらず屋敷の
夕良はしのがりはおぞさ
汁のうれひおぐらひ良はし日
ひさごはけるひて蒲者あり

学んじはしより松ごろ酒
夕良の帝の年うれあ合て
勅撰歌ハえくぶす
腸よりひさはけもやあり日
夕良ハ炭汁あり年紙幸
賀茂汁もていあり
勅撰歌ハえくぶす
腸よりひさはけもやあり日
ありけやもれの紙ハ煙く
桜幸ち汁のかあされよ幸
年紙明ちるあり
ありぬ面ちあり紙ちりり
いなりて蜜ハ麗ハひろ仏
むりく紙ちあ遊の和

むかしくらべはなさかのさかり
まりはなと云事之
地形しらせ館くらべや
たぐひまたでゆやけのうだいせ
琴は音やかうてあそふ夜は目
あとの音やうぶかしたゞむは地形
ぢ意よういはそらりさと云事を
丸地もひやは様所のいけ
夜は月ふ行くあせは社壇
ひやすふ此句あつきんぶれは今ハ風之
たびの心はゆは蒔年
伊勢日物語はさゝつあり
足もとに足ほとこうまり

姫ゆりは水も草ばかり花盛に
今ハ具足は草すり用付之
去りしきたしはなれハ船頭
ひめゆりとひめはどもれ草乃
をはと付より
錦あやはさにうぐみようすき
夜明の世されは海老は鱗
あこれてひや喉を鞘つら
あんきうにたくひなたん
山がらは鶲よくかなはんらう色で
ふくろ鶲はこれはまくゆを
くわなは華とよりなんなり

わりくとはぬるくいふうし
竹の子に隣の庵へ根ばさして
大またにあゆむこれのあさ梅
簗打の跡の隣へ寄る梅根ぐされ
とつけたり
おけるに節とゞまれはなり
前句一句にて聞えぬ事あり 今ハ見を嫌ふ
乗りかけしや雪の暁の往来の様で
前句は猫へ手を出すな
前句ハ人の様子か猫がね
かとりなしあり

秋

すゞしく風の神の声

鳴きもせで物やおもひて行くらん
うき枕葉も身にしみて行む
腰ぬけしまゝりあへ風のつり花葉
うつくしむ人の心持ぞ顔
十王だらけの秋風ぞふく
浄るりの夜の月見
雨夜の枕さるゝ式法草一盃
茶盃に情張とつて盃とぞ法
花の夜と思ひ起あり
もし月家ふも法くゆるや
月星の暗さのれの乃たびひて
まくもあらく深しく夫婦
前風れりの鉢の湯の海しき

ちりかゝる月に星ハこの葉哉　知足

新宇治草之

高野やひゞきもはれの宿ばかり

大方は空きて月も文字よ

ちりのこるらしふれ松茸

月迎ふ松茸ならぬ家ざかり

むかふのりうかんへ行みよ

かのうとものしは浦ハ月毛ては

漁氏の大羽月毛は駒出てあり

ゑびすの宿へ寄る云乃行方

の留守かひろし半あり

雲は空飛雁のハらん

川わたる月のこはかりハあかゝふ

お横れかしのまゝあやき杖

いひ家やうに夕暮乃空

三ケ月ばかりある日ハ糸

こ後の月ならたゞ長きよ

あられて雨にひつの浦そ吹す

あつれかもふ猿ハ栗はむきて

八重八重の山の秋の勝

九重日和山風の流しして吹

こゝゆうしあり

こ河わたし家持字れ盆

七夕も子がふけてやいふれ

矢ぐちハさ絵といふ月ぬら
のれもまれる時ハ弓張月ぬ
あり
ちゝ家の秋の秋風ぞ吹
二世ぬ夢たゝもゝ時て
ぬ付句用付多り
乙家もゝ公ぬ金ぬ世ぬ
都ぬ巻の折あり
どこぬいとぐちきりこう金
ひさこすぬ金ぬ草花小姫に
すこぬ小姫こぬ絵ぬ絵まき
おゝんそ世ぬ秋ぬすゝ

あかそれ家ぐゝ入てこうみ
見あゝふたゝハ秋ぬ月さ
むまや秋風秋ぬこう秋風
ぬたゝいとぬ多り
うへまゝこうくゝ下ぬこう
ぬ前句一句付句
りのあり
三ケ月ぬ秋ぬこう
ぬ三日月の句言葉言
すぬまゝぬきかゝみゝ
三ケ月ぬハ釣針ぬたとえ
くぬなりみゝくゝ
ぬくゝ句ぬそこゝ

夜ハ波これと波風たち
けるふのうせ紙よ雨降り為て
せこまつ花ハ嵐と清つく
芭蕉の女ゝ有りたゆるゝ
くもるのふくまうひゆて付
ハ有ハ花ごとに成こうふ雑
菊ハ花とて軽もあらぬ
重陽ハ酔て俳ハ独言
九月九日ゆて菊紙付独言
ハへと菊ふも耳有付ゆ
きゝ人有ハとゝ
冬
ふそもやりとふ六ふうて

あるまゝて
うやなふふ
山中のうそめふふふれ山中
あれハあまれあ
月月ハ下に我ハ孫よふ
暦ゆそやぎ
冬ふ海ふりいづかいたう
三海こゝみとあり吉ふ海ハ
かいたハ傍ゆて付あり
一寸二寸ふうむみれよ
書道のふ
ばる同意ありあるハ
ふ

ちいづち氣老てゆく年
老人の身はひゆるのあり
ばくらあるうちむげなれ
ちつぶのちいこ帷みてもきて
こゝろてちぐるまはちぐるま　ほうはの海
飯のちぐるまはちぐるま　ほうはの海
天台大師　霜月廿四の大師
海あり
ひたいの三ぐるまあるみよ
幼年ぐるまやおかちぐるま
うんちほうせ　よちゆ
来年はせよ　今春ぐるま
よすがあり

神も雪にこゞれの
我宿のくらくはなるぐるまの
くきにくしぬぐるまあひく
ちう紙ぐるまあり
ちう紙ぐるまはぐるまあり
無力ふこゆう宮人の袖
ちくやふかくきあけみてき
すりて逆火燒うたふく
みきあくうきてあり
ものもくあくうしあり

立
菊紙ぐるまてゞひぐるま
名の三くきあくや奏ぐる

狩ゆきもあひぐぶいの元

法しゝ人ゝ[illegible]

此ハ飛言あり

そこ濃はれまると八八とゝ也

いゝと云字前白まあり

我がたぐらふあるよれ唐紙

そこ濃八八唐紙清くあたゝ志

もせばなたぐらふあると付うり

陰陽はゝこの世どのこひさ

六言れあるこひあるよて

せんくらゐと中の一とゝ

一德と言と付あり日ん

れハあ式ひゝ中八実物れ

あり

人間万すいりてれる中

塞氣ゝあるがもてなひもこば

もハ式三番にあゝ古のあゝ

ちこびあれやひ耐と云頌代

ぎり付あり

洞ぐ川のうゝ水あぐく

此白雲飛言

及あれ人ゝよ式けつゝり

野ゝ古ん式也乃飛言

ゝも八式代いのあ水あり

長谷八うけたりと云こ
瓜ゝて紅もちゐられぬ中
うそさ紙かぞへ八枝もれつし
きんだぶくゝ紙基よまるゝ
ゴ紙八枝ゆてかぞへる物あり
うへ八あく月はゆる乳戒中
恵八ゝぐゝぐゝ刀ゝくよ
ゝみ枝系八のふゆぞゝれ
孤ゝのうへくゝ法けよあり
知ゝよ八ぬ恵紙ゝゆぞゝ
紙ゝりも大ゝ流よだき付て
年ゝ八ゆう孫ゝ志ゝれ孤

ゆ流の遊女ゝだき付くゝ
閉八ゝくてそとまりゝ
山名恵四神祇物ゝゝ
金紙ゝ家も入賀八せゝ
女の家ゝそゆゆゆゆ
ゝゝゝ
恵八ゝ枝生紙ゝつまぬ生
八ゝんで思ゝと云につまゝて
枝ゝだゝく紙り移ゝむ移の史
万地ゝくゝさゝりゝゝゝ
堂紙の場ゝ日の恵紙ゝ物場
知りゝ八紙生きゝ紙ゝ結ゝ八

あだ名ばかりに神もひのまし
一白ハ中ノ寿ホメテ仕立ヨリ
人の情やあかにあらん
面白ク成ル背氣に成ル
えぞたあわくやぬりし花ぶま
ゝまげさハうあくび寿未ぬえ
ぶよ法ふりのあり
ふびんのべらかれ
きぬくよ法ふ就ひて
寿ぬくやくも飛んぬきし
屏風しうあ分遠ハ
ぬやくふ

びやうぶよ法ひと分寿
用付之今ハ婚へ
寿合ハてかこ法けてらぶ
寿合ハてうぶひと遠むうあ
遠ふも今の遠分たまゝ
昔ゆりそ月ぬ遠の道
年ぶさふ又月遠ふ今ハ
寿付
きの乃ぬ狭弟や遠法
ぬうく六月南分あり寿年乃
遠せしぬ寿中付あり
命ちぶとういとで之
君ゆ今月肩ぬうちれ

まけちやれまけも下々なれは
塩薬ハ胃の毒と醫者もあり
きの人つよく祈られ祈よ
甲子の夜ハ人にあいせぬもの
めでたしありがたやうの御代
さかとよ人をきき折らげぬ中あさゝ
くらひれこハゆらんのかとこ
二こにはこに天道ハ女のうけ
げうしゆへにおれおとこ二番
西行かうさあり
和歌山は浦にゆかりかく
朱雀のたかむすめし大納言
きぬも月待めたるかみら代

これは付たるとて穿ありとて
寒によりハ紀付やうにかう紀付やこ
これらゆて天味なるへし
此もこゝゑても名れたらし業平
伊勢物語よりのらかって
ありよりあるれやまりと仕
ゆへあり

雑

公家と武家とハ二つしら也
立ゐ坊縁より下へおりた所
受領の者ハ様やかづらん
須磨の山れ思の名残立る別
といふあり楪統お附録なり

[illegible]所祈なり

四国八海の中にうあれ
清ぐ[illegible]に[illegible]
蜘ゐ小物やおりし高人

[illegible]のふ八つあかゆ人なり
雲[illegible]りとやくいろん
[illegible]
[illegible]や[illegible]
蜻[illegible]
三[illegible]早ゐて付なり

[illegible]あくうそあ[illegible]
青[illegible]玉みでは[illegible]
[illegible]さ[illegible]の[illegible]

玉地と[illegible]り

[illegible]あてきいめ也[illegible]
雲[illegible]の二[illegible]
ふら候れ[illegible]
[illegible]八田ゆて付こ
[illegible]八茨ゆて付こ
ばら打[illegible]
ちりぶのさいの酒に物回
のまりひりのわらき丸薬

拭角きこ[illegible]
ちやの出ぐり出かぐ[illegible]
[illegible]

武家代々の都京すなはち重
代の太刀はじめなり
山かしこう法家入道
長刀武部太刀はやはり
ろいろこと武うく永くさ
ち刀武部太刀はやはり
みそろいよ用法あり
うけた刀に分帯びなし
雲代の拵武も貴に重ねて
くはてをら机ぬきて法撰集
次代の内縫法撰集千歳
ちなかり縫武金に紙
ろ楽道の太師あり

うか完武あるに分人たち
三途の川てそうむ見え
女の死ろふ始よ祈そめた
男三途川とも武部とも
と佛祝ス

ひろもと塚中法あり流
敵あり武殊四ろ太刀持て
そうみたいのりすかも智恵
敵の武八ろ見さまてあんし
らう又殊八智恵分合あり
祈よ太刀武きあり
塚の間ろうみ人分恵
あけ太刀武つふよ逆さ

大よ用人すゑ八猿ひき
畑の猪鹿毛抽めてたゝ牛
猿引八方角おぐたゝの牛合
迎ゑ八大角りあり
鹿ゑ角角弱猪
金龍のたゝれそらにや
法ひりり鹿ゑ角まゞせゝたゝれ
真実鹿ゑ角ひよ金龍の方鹿
ゑ鹿ゑ角の方鹿ゑ
ひよ金龍の方鹿ゑ
鹿ゑ長く光ゑ
と猪ゑ祈角あり
あひつゝむくゝゑ角ん
ゑ鹿ひゝ鹿ゑ角の法の

人の角ゑ角あゝ角ゑ角
おゝの小ゑゝゑ角ゑ人のゑゝこゝ角
とゑり鹿祈ゑ鹿祈角の角ゑ
ゑゝゑ八けいゝ角ゑゝ角
祈ゑゝ鹿角あり
人ゑゝ角ゑ八角
あゝ角ゑゝゑゝ角
あげゝゑ角八角角角ゑ
時の角八部角あり時の角鹿角
ゑゝの山八角角角角
角角角角八角角角
角八角角角角
角角角角角角角
角角角角角角角
角角角角角角角

用ゆ有り

ちごの所より流るゝ庵りら

児ばかりにて思ふとなり

るゝ乃ちむけ人ちりから

浮く物あり

あの在かも蓑浦や折らん

ちりあの岩抗ぶまにこゝ立て

碧よりも今ハ用ゆ有り

と色こゝ来てゝうむだゝ老

と色ハわゝ男こゝゝ抗の姫

の抗詞ゆてあ人ちらこ

わゝこハの抗在ゝゝ

寿とゝの抗抗殺し

法ゆげたどゝて去ゝれぬ

どくとゝまて去ゝ抗ゝ

ゝけゝゝ抗ゝゝ

けく時抗地よゝゝ法ゝ

住生人ハいゝゝ

来四抗ゝこハ抗ゝ

あげろ抗山乃大風乃ゝ

あげろの山ハこゝ来四抗ゝ

ゝゝと之ゝ

むゝこ抗抗て来てゝ約

年芸ゝゝゝも蜂や去ゝ

毒山伏のゝゝけゝゝ

とゝか籠ゝゝ山伏のゝゝ

がらにかけてなくと蘂にあり
蜂ハ伍子胥が古事よりおこりて[illegible]
この人や格合ありて[illegible]
蓑者[illegible]まくら蜂の巣
かけて残く座[illegible]ハ志べ[illegible]
蜂ハ一切の花の志べを残すいより
てらつよ出すなりのあり
をんじ次にも出[illegible]
四人あらバあぶとむさんよ
偽みられ経の[illegible]すなり春[illegible]
蛸の[illegible]ハ経よりむすなりたなも
のあり
[illegible]られ[illegible]人[illegible]きれ

かのくとあり[illegible]や風吹力捨て
人はきなりといふよあるぬく
と八今ハ付くらび
[illegible]りてよ結れる事さ
[illegible]よられなり　色よ秋の野
山の名[illegible]ハ同さよ[illegible]
[illegible]けぬるよへぬるとなるもなる
よらり用捨あなぎ[illegible]
のあるよ。此総乃名なられ
すてきも同さにあらびたとへハ
[illegible]と云よ緑なるハ同さあり
[illegible]草藍なるハ付そくらしか
られそれも楽といふ詞なる

ふと
こゝをあかし入て書やうにこゝ
りへいりとうゝ赤とりに月の
あるれ和のゆてあるれ和こゝよ
八朱丹色よ砂紫なるも書
うゝこゝの巻別
あゞるゆゆ赤丹
打消れたのゝ赤橙あるたて
嵐ゝあゆやそれ思びつま
人の真代稲ゞこと赤丹
例ゆ人あゆ人あり
ゆゝゝ赤もたゝとかゝり
時人のまゝるこゝ蜂仮書
ただこゝ消れたゝ

遠世ゝ赤れたゝ代
ふのゝ赤あゝ遠着傍房
歌々花とゝ稲もあり
芝代り稲芝ゝ赤れ
いゝたゝゝき餅小面降
以前白一盃面れんあり其上面
小義芝同ゝあゝゝ
地ゝまゝりつきゝれの書
世伝小面降て地ゝま赤とゝ
あり餅八日中て消ゝあり
あゝゞの系代茶ゝゝゞれ
前ゝ平やゝが代の中て海ん
換腹小道一ゝ人ゞゝ

此外道ハ殺伐ひろけて勝よ
あて毎り一宇ハ寺あり。ごー
のわりゆうあゆてあり

あちんむろんげこらへひろはん
小関あやうしん絶とゆん
天竺山よりひきの初夫
物ひろたてハ〳〵注坂ゆむあり
もうんべ乃をゆまーあり
山の奥ゆ何ようん
菅門よこう流さろく
うろびてあり分枠れ来
けてゆ。けやうんあり
うろうぼうろびてとうけた

近江申樂絶ぐ下ゆあり
湖のたきゆありて金竹ゆ
茅郡ハ今ゆ
初ゆ天竺来て白髮明神
よ。丈菅山の地伝ひたまゆ。ゆ
ゆさぬ夫ゆ茅郡ハ竹来まて。
ゆうひれし古ゆあり
神さうたとうう
様こう仏ハ
うん弥ん先よ三ー古寺

そてもこ家ハいでう勝ぐ仏
ぶまりうに家れう英大夏

芸分ありよその風よ火ハ消て
大豆のからハあら紙園よこらと
まれなり

楊ら井に多き先しうと
薦同代の酒で守りぬらはて
すみ紙こふハ京のまち中

宍滝むすべ冷よとろきけ壇
めんかう氏袋紙きたるご宿檀
ちごうた御て御様ごゆこう
是ハ惟膏惟にのせかくの
時お様の新紙数山とあさた
てぜうれしさうなり

何と以人丈旗舞もせん
すげもなく庭氏芸板沛の位
て
また楊らきゆこれさうきこゐ
すげなき紙那気なれとこれ
まれなりまた楊らさうたらハす
いけハあうまじきなり

わまり焼の立ぐらなしれ
そうれやまおりてこられ旗は
むかし氏そう昔もぬめらん
代のちらハらくやけさうか
りてさしへても昔むけぬよ
ふなり

五十三ハらしろかずりあは

窮屈なれバ志ゆらん風呂は
呂律と合て宿ハさらふなり
七絃と名付よ見なれへ
戸ハ鍵ぬれバあくらうなれ
銀杏の丸をまてハらもたれ
ひつじの刻よりなの腫の
昼の午の時ハ丸ハなり午乃
後ハ未の刻なり
毛のあなハなハちがうて
男子ハ[illegible]
[illegible]
慶[illegible]月ぞ[illegible]りしてすきに
以上なり

毛けハ[illegible]ハけをぬ[illegible]なり
[illegible]きに[illegible]紙ハて
世ぬハ[illegible]て同字なり今ハ字も
うくれ
塞ハ人てやさふうふんハ
[illegible]
今ハ二郷の中間ぞうし
[illegible]
世ハ捨ぬれど喧嘩すきなり
たけき道ハ者は新なり
三益の山ハさうほせい文
天の原古酒ゆめとせめられて
某て時宗ハなるれなり

天のゐ戸の原よりふんし
雲戸の酒てのむゆへあり
大さうづき戸このむ山伏
らうきや殿よめ交へ今交
八年こう戸花もとすはか
めでこそどハのうぐすあり
吹もふれぬすふもすれ
ひ白一ゑ戸酒のしぼ細こうぐう
のゐ面戸て商すし
わ里箱ぬけうぐぬけうたはもせ
われいう親うぞ三味線よりた
琴うハ行きても三味線にふぐわ
里箱ハぬけうたはもあとけあり

面白かるの
一吹もふれぬすふ戸
山戸の貝ゑ髪ぬすれ戸ゆて
ぬけうあるうしう魔のゐ形や
一吹もふれぬすふ
酒ゐ酒よやゑ
酒どのあうりや酒ぐぐぐつん
こぬけうたこがうてハやこう立
りのあり
もうすふぞ仙さあ戸焼山
あめ戸矣いざこ立ゆてみこ仙
梁戸もろひゑ月ゑ戸中
続のゐ戸ゑ中の矣ぬぬうり

あんあり

切たくもあり而さくも色

濃人後とくてこれい我ゆゑ

藤のやぶの行ハ彼くれずす

筆ぬぬ人とさく人たまハ藤乃

をぶさくだ我ゞ筆後とふあり

切くくもあり切ゆくくもあり

ハやゝあ後月ゆく世ふ花穀

ハ白女記言

たまくてくめくく吉凡村名

花よ祝ふ村々ハ羽ゆ月後

くくあり

切たくもし

ゆうハ的矢の ハ

見ハ和歌ハよるのやうあてと海く

ずいふハ集よあれいくて今ハ

五月闇

みげうのび祝ふく沉撫乃

撫乃宮後的塚ハ辺く乃撫ハ

ゆくく記

いハまゆふ泥部乃井てゆくまハ

ハ後ゆくてくく乃の辺宮

ゆくくろハへあハ池宮ハ吹風ハ

撫法風ハけさゞと平ハ立海く

二三百貫ゆくひ沉やゝくゆ

年ゆいの宮ハへくくあり

て

咲かざる桜もえんぐず
花咲けのあはゆくへよ手遊には
似よる花ばな見とがめなり
作の家ていたりけりとやとだり
素はけぬる小袖の袂にて
厘がしめぬたらくのはなれたし
やぶさめ神前にて神にあはは
ゆく人のりはけぬとんぬ付くり
よそよそ取せ子供して初音
面向ハ鬘は方もんゆて
様がかけらふは草ま
杉は様と付くり鬘者ハ草木
さうしてたくりのなり

たくたちみて腹をへりけり
やれたあふれへきかへ花咲折損
ふうん出入合はせ博はしの折一本
あせめ石丹誅にて敵は打損じ
たはなり火にてせせ山へき抽
神と梅なり
しらひの山よ鷲飛きうて火
獣の声そくまきねハたれたは
身はうろむしうハあやし紅葉
淮南王の古事なり
つなかぎれハぬめりこら笹
抜て人は刀ハ来きつとの刀にて
前句のは付とて目安之嫌し

あらしんしやうの面かこ
前鋒八鈴をてをかるかた
包丁ふうりあるあり
ほのあさりに完うそく
天八紙刀ハ紙よりもそ
此前白の紙ハ源ゆかうり
てかうし
んしそうばゆ紙もらくあみ
天八八ふのとゆて付あり紙
そのあらんそくぬるり
雲代上おもゆやとらん
薩あ代自在天王ゆり上て
男代ちんふよ鶏今ふくて

ひ年人ちんゆ間ゆ志そて今八せぬ
ありうへあらゆ貝ゆあく
ゆハんひとし北よりニ白可
ちあり
ところハ昔ゆ代ゆかくせ代ぞう
昔恵相八観角ゆ天ハ代角ゆ
ゆかそゆ時ゆゆん
鶏のうりゆ夢ゆそ
用やのそうりやちりぬき
鶏八用ゆて付ぷりゆハ強ゆ
要八ゆとゆ恵ゆの多ゆり
思ゆらゆて紙ゆるゆよ
春日野のと蒙紙ゆりこゆ

雪まの月をながふ鮒こうし
すり餅ばかりしらはかあり
[illegible]の前て筍はうこま
はあしの酒やこうに[illegible]ん
鼠四へ今すものね[illegible]や
油のあ[illegible]まは鼠もありもとこ
いうふいのこれ出てしうらん
とりふくや歌[illegible]うて[illegible]軍
鏡ゆて[illegible]ぶ作者兄弟
吹信出代うこれの事あり
[illegible]びの孫ゆてうる[illegible]
うてあるひめう孫婿ひつが
[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]小[illegible]ありつぐく
八[illegible]よりあり
あり服[illegible]やこうもうあれ
う家りけ[illegible]の[illegible]
屋[illegible]ありやしうされの
あ[illegible]の姫[illegible]のうすあり
此程八[illegible]風の[illegible]
打[illegible]うて[illegible]れさ
碗[illegible]味の[illegible]こうあとあれ
五味汚[illegible]屋[illegible]清硫[illegible]味が
すぐれたあとりあり
あかうもちありと人やまうん
まうこあ[illegible]もみまうるも女

琉球国にらくあれ あひ
あきなひして国うちにて
たり琉球に女の男装すること国と
いへり
まことにたうぞわかするにぶ
わやうにて後もこころばせ
姿なれはけやうこゝろ
はうけとなすこと
はのこゝろ
お嵐氏
嵐の
をしはず
山伏

角ありてもかたのうそ
さたの神のはうこあり
おのづからすうこはうろ
ためし抱矢ろも矢尾さるはる
あすりく狐女あるうぞや
玉りの笹武大遣和ふてため
射あり

人後くんうて人ようこはう
橘ためてあ人抱よ鬼あさ
胡桃ハあれうまえ聖極び
わざみよこせうてはう合こ
おやこハ人とる後ぞ矢よ
はふうこ人き晴後なすれ

是よ二百用ケ人
ようこれの鍋後てはう出やす
蜻はふうはうあり蜻よ武後
まうこあり鍋後合後入所はう
こ一日ようこぞき蜻後五合よう
て蜻よはうれうこ付こ
久ひくくるもの後なようれ
ひはうすか興はうゆう葉
わうたうこはうやわうこ天人
羽衣れ後のんあり
やうこれの出後長尾ご家
今うあれ我も青八男して
まあれうしかいよ海ふぞやは

男にて背たてこだてしたる舟
の乃代今女はいとゆゑよしの
うゑ代大せで奢侈ふるる
宮殿の新よあるを見へて
もこれらをいみだすくあり
人物ゆゑ飯すくあれ
ゆえぬ飯ゑひばよなる
雑物のふるあれ新
えこごやる所作生涯人
竹生涯の侍者あるうあれ
えゆえてこごや代ふり
はは代をや物代たゆゑん
ちとけたいこだれ

ひしこ代ふ殿のよれあり
周の文王太公望出て殷の紂王代
ありしまま
天物もあれるか羽生あん
ふ国の寺ふ古代すりこぎ
ぬ代て代ふ八いるあ神みて
すりこ代てみうなあり
今日もこれぬとゆう書通
ふまれへおれ代ふたり
ひしこいうあて一白れ
し今八不南
服ようけ所雑国ごうこ
花やちこんのあり

みちのくに扇あり
新りうの八の関八新りうの
おいらぶ山あまの日も武田か
ふるぶ紙今日ふる雪ぶしめ
さりひ八武田ぶりんあり
ふ人もうれらうわ
ふ人よぬすまれ
ふけとらぶらふ
蕨匂ぶけてもぶにいひ
ひけうわ足ぶやぶ弧あり
ぶ山と芝にみぶう
腫ぶうづまぶ多
ぶ腫物出ぶ人ぶ八ぶ
と云せてぶうぶあり
ぶ山
ぶ人や物ぶれぶん波川
ぶ成名ぶげこけ世つぶわ
切成名遠て身退八とて
雲ぶ毎ぶうて立湖入行
ぶ山
ぶころびや紙握ぶに
嵐ぶひ球も賞ぶふう布
ぶうこひぶ八布ぶて書ぶみ
ぶ山
ぶ山

いろひへうん扱者のえ
要紙はすまふひへうさう
衣すのよさう海苔ぞきな
人は皆腰うち下法袴うみて
例の用付あり
我はこまう法ぶうられてぞう
お稽古ぶうよお膳はさうれて
まうぞすてうんとうあり
のびのうはれたぐふでれ
田よれ蒲よ打ぶうれ者や
茂咲うげや上のはうまう
上行れ者やあり者侯田蒲
小間家にはみうあり

清うまうのうはふふうふ
うう
裏通のうんせうとうあ
はいろちあ奉うそ俵め
お稽古はふうびやはう
うはれてうんびさう
あるお稽のはあり
裏通
えうひよ打うてうはうやき
羊はあ武者れ教の記ふぶ
てうの法童半れてうにうり
まうすあり
双紙一帖うせうてにうり

我屋やに時く相ふる朝
庵のわハぬ忍びすの大黒
忍びす棚ハ黒たるなり
光も光らぬても閑寂
お飯の山乃取あり大根さい
まつ白ゆゆしこゆかちと月丸物
顔白丸馬あわ
ゆざりかをてめて法ハ
と茶つが丸ハの世ぞ行よ大袋
袋いろ〳〵よ切そくひあす
武茶つかの品紙ろ武ろみ袋
紙〳〵らゆゆ新あり
二月碎ハ

朝日丸法ハあまりちるて
御茶も海ハきうあ〳〵ぬけ
法ハ〳〵ちりあすあり
結髪すハ浮世〳〵丸
遠者毎ハ琉球沖つ
行〳〵ちる夏ハ大ろ世
屋者ハ毎中ハて風法生
ハあり
うぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵
法ハ二のみ丸ぐ〳〵ハ
ぐ〳〵障ハもせんぐ〳〵丸
法ハ棚よ丸ぐ〳〵丸
と障よあ〳〵二方のと
あ〳〵あり

用ふるきかたちなる
松風よりはなほつまぶ紙にて
ひ一白奇のたるもそこまでは
まつをれとあるぶ紙にまちえ
たるの
きたくしむちさひやちむさえ
まつ風と紙のあるようあ
ケり
陰陽師うに素てや海仁
先へ引てうきてうちむまれの
鶴見天八幡宮家しかまりかいあり山
うえ引きんぶ紙いあるよう
あすあり

[illegible]中樂たのひ[illegible]
切ちやうどちぶ[illegible]
のぶれぶいつやられものたり
異法よやうあよれたかとてあ
ひとし云
塩ぶそぶ天へのぶれ
古郷ろ焼よあ夕焼
ちうけのよ[illegible]ろ町
畠ハうぶのりられ紙あり
大日やしだ水畑てうぶ
こんぐらかいよいぶあさ[illegible]
昼ねぶ[illegible]あや夫ぶ宮の辺
むみぐくすあ紙気ぶ吹ちし

催る樂よあり金財ぞやう沼
乃名あり市ハ心市勝負ハ来れ
ハ風ゆてあへーらひ侍

たうとうもみたうとうもし
龍ちゑ祈ちうてうれわ
あへりの寺れ侍やぎけの
うぶとうれあすうさう海うう
玄蕃あり

まへやくしに江ぞふ
世の中ハいとふとうう
ぐんいうれうやうう
式目小行方ハ贈賀野義利論
すかうあり

きびくあり 山びり 雑
うぶふ栗のりに侍
みこれそと八塩ねてたうう
みこ塩そちあ内塩ね
ふあり

一 屋れびあて何ぶん
侍吉れにあぐう縄の加
みー夾吹きこかれ乃大風

一 へーあうとけうりかうや嫌
仰の中ふれ
あれそう三百余珍引うて
雪れけめハすれ
無法ハ雪と云あり益辛未

つまあひて本ちかく又二首塗籠
ふるあるあり
山のたゝずまひよりぞ川よりぐるい
ゆのよ字かく八重紙ゆ
洞小殿のもぬめ所こんざく
あ白し蓮花を入さら紙三首
月ハすてゝ字書とうあん
茶さらの紙箱て付ふこ
この中ふもきこゝばされ書
入このたゝ師や紙引ぬん
衣きこせこゝ君にみてゝ
年よりのあるうりあ
新

宰相のぞやとぬ紙すん
門ゝ紙の塀紙ゝとゝ紙
大切えぬまこきるひあげゝ
瓶ゝ塀紙花紙
面白く格紙けゝ格紙
茶の湯桶のゝきれ
此前白のすゝ紙ぱのずきゝ
とゝんあれハ茶湯と結こ
今ハ格こゝ八茶湯紙
きこゆるまく茶湯と八結へゝ
いけ花のいりやゝ
ゝもハゆやゝてゝきけ
あ人ちゝ

今ぞたうとき仏なりけり

そくふくげてなむまこと故古仏

ちなりのあり八へのれあり

そはぬぞふとはべ分白れ感

こ内一合こ品べうこび

たづし柳一や化し歌

揚柳歌音あり一しの本こ

ゑふ付こり

俳の歌でせんざりけく

ようもしつしこ三こで四文殊

唐柳ふ代こ俗通者の義

きうこはいく

ふふいのけれ芸

宝海代こ

ゆこけるこ俗前日同ふよ

地英系代のか書俳

ちうこ代こ人芸内一合こ

文れ日やみ系のこよこ

うんひこふ俗夕食の宿

炭半れ系のうり終今い

ちみうり乙よ

ゑんかもかくゑうれの浦

ちかれふふめ海れ

ゑんかをうこ代ふぞり前日ゑ

ず同ゑんよれ系り五縁こ六別こ

ちいさく清ハ何よ[illegible]

たこれぞうあり

ひゆ紙たゝも今ハうゝ

ゝもかもせ[illegible]

ゝあくわしめら分すむ

あ[illegible]ゝ[illegible]ハゝもかゝ　あ分

ゝ

日[illegible]れのゝ[illegible]

あいたゝ[illegible]

ゝの間ゝ[illegible]

あいたゝ[illegible]

入[illegible]

そのゝ[illegible]

ゝれゝゝとあゝ[illegible]

きゝ入ゝゝ[illegible]

紙公の日[illegible]

あ若ゝて名付ゝ[illegible]

あと一百[illegible]

八[illegible]

貴[illegible]

御[illegible]

油あ疱あり[illegible]

そきあゝあり

矣ハ[illegible]

[illegible]

式部省職員令に掌侍連歌師
兼帯してもちゐる新
うんとあれば葉よわし
因みも侍りとあり
よ云
よ紙ばかりたゞ
乃ふ云名あり
ぬすして下に
家ふ
時代の権門の
威よおそれて入
主殿寮の
まあ事
ゆゑ擬政よ祈

うゝゝんよめ
那氏たのもし
はもゝき拙と人
名れ
和八
ぎゝ
ぎゝ桶
ちゝゝん
逸すて
式部
ありひ
宮
子氏四
を氏

さぶらひ
あるべき法やの雜費たくらん
なもうら雜費ゆて付く
去仏さまも下らうれ系統の
こがぎもぐりれみちやうすあ
春書れためふ物書法花巻て
葉うすし紙とにりあすく
もらうべのよびぶ法よ弱て
えぬやはいめうげの記
春葉れ多くさや桂西乃要
七垂の落ったらひあ
こ法はけ
丹後油のへ拾うあ

うう丹後れ面あり康成
おうりあ山伏のうあ足書やるかん
行くあれうんのうこそ
神本氏向るも多沢づきに
神本は行沢打あり
書に物の耳と兄やうん
下れ書うあ虎れきか
御書御庫れ文字沢
うれ字とむこりと云字外うり
あれたう虎の毛うげ筆
法こあとう弟おさうひ稲ほん
キよ元稲うれ国付く

華はなてもうる紙枝
君我は華ひ移りは汁めて河
今船のおけ風は拙くて
はかてはいるを河一伯坂を今
をいるを移はうくはさめぬのて
河くふめあふもあるあらんの
これなを四はかもうくあり
陸見と云河あれは見と見あ
あり所きくあるます四と付合く
紙すふて紙れしふ
人よりやつ懸れあふの
折と賞ぬは面のうどかさ
紙の面みしうけ三頭ふ

水月風合船あり
あまりにむさに風紙入り
一
志川のめぐはうれ塩釜ゆ
右面白き鄙て
廣野山はたふ長滝
志川の坂陣京れうく
面そのあうふをふ
生業紙答れ人れて
うを山里れ風呂れはふ
風呂れすすぶは祈あり
酔ぬう時の者しくはさ
のまは里はまぶ柳さ二よ六山
これ河宗あり酔よ酒のう

ゆけどくらべ

白菜汁椀このむたらせへ

菜上こと六名間あり

不動のくんやちびのぐらん

一ぬぎうりかうすみ洗日持

み猿のあ池やまし濱ゑ

ふハ濱のまちごゑりぶりかう

雲れうしあり山のお産へ

十二部夜れしき忘日あるへ！

大根のうるやゑ賀と云絶地羅尼

猫食うけてあ下ふせもを

神仏のゑだくふみあれハ神の

宝まうしけまと仰ハ神と

あ銀ようしあれ沼ふかとあハ

ふ富あり

わくもかれずうれ当

うゑ猫う濱の旅ゑよこう神て

とりてとうし濱ふる丸狗

狗ようこう神せうれて行くゑ

乗ハめ市まて屋ハめ市まず

ゑづくき丸神も細工のくゑ柱

盃のとうゑ雲丸ふるそい

雲ゑうくきとけまうり

あぎくれん酒ゑ呉ゑ市ますや

力の柄ようかくふ市ちんる

ぶゑ丸ゑ市ゑ花田祭すきん

けあるゑにのこしむかしよりの
ものすんなり
大般若こうみ女の紙袴とも
たきやう養ぶ三ぢ
山鳥白雉白ゆれん鈴の付やう
ハあるまじけれとも今ハかくしむ
よ三のひのしく用ゆるなり
又他紙と云も何紙とあり
てしうゆ中けるへ
ゆしいよ紙と付ける白方
都出ふ紫のうふの
たきやうと他紙よ元物と
物語も言ハ表ゆ

あるゑにハいんち紙ん
をぬ重ハ胴皮とうゆるれ
けるね刷やわらむ形虎
胴ハ部胴皮ハ虎のはとそ世
ふぐまふのありぬれハ
けるね刷と幸ふ刷よすると
幸ふそてうるふの物ま
白拭ハけあるうう物よれ
古き物やふ石持
山一ハ華厳よる拭とみ
わくこと
石の名井ゆ前よ
山一白寺ゆ前と云ハてハ

ら先へと云たゝびしてゐるよ
うす
[illegible]と[illegible]と[illegible]
ふ[illegible]
[illegible]ふたのりしあり
三のひろひのたれをりき
[illegible]や[illegible]よ[illegible]
[illegible]
津国の[illegible]
ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]大級[illegible]
[illegible]

大百姓に大級[illegible]
八角[illegible]
[illegible]八一倍[illegible]
[illegible]
袋ハ[illegible]
大[illegible]布袋[illegible]
同字別吟あれ春日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]吟味して[illegible]
あり
嵐の匂ひ[illegible]
布袋ハ[illegible]

冷水あげうみてをれこれ
ゝ傷あり

人よハあゝて人のようなき
落葉ゝ又と云字成ゝ仕そ

ふぐこのさ付まゝうぶひこ
ゝ名ゝ小ハ傾奇人ゝ
書付同ゝ仕れたゝうんき
のぐんあふ変ふ書

あうすふ[illegible]に[illegible]ぞす時
ゝ[illegible]だいの下ふなゝ
ゝんふいゝ人乃ゝ
教ん者ゝ[illegible]ゝ
のゝんずふゝ

乃ぬゝして時ゝと入ゝ
ゝふぎゝて笑きぬ人の面ゝ
一祈のけゝ祈ゝ
あゝゝゝふりの
ゝて祈社ゝあふゝ
ぜひたふゝも
うどんゝゝて
日祈ゝ面祈者
ひのゝゝんゝ
佛ゝふりゝ
ゝこ祈ゝふゝ
あゝけゝありし
牛ゝりの牧童沈

いろ〻ふ[illegible]あるこゝろあるべし
すべてこゝ[illegible]ものゝ中にかのこゝ
ありたるいろ〻の移ゆきもしるらん
荷包の落れ[illegible]ものゝかゝ
まんあり

佛式のこゝ[illegible]時遊ぶすかゝ
移されたのり酒せ一日時
完後の[illegible]代一夜のびゝり
侍ぶの切腹一夜のびゝかゝ
あり

あの座あるかゝたれの
海浜ろうひ[illegible]茶
ゝあのゝ[illegible]まゝあいゝる人

仲式座かゝとうあれあり
きゝねたれ[illegible]ねる人[illegible]
ゝゝ思し[illegible]

あれ中ゝ[illegible]
葬れゝ[illegible]
紙ゝやあれてんぐれ
代あきゝゝ[illegible]ふのかゝ
かゝあり。ふ[illegible]
白ふれ[illegible]
だゝ付ゝ[illegible]
あゝ[illegible]
奪人の[illegible]
座式の[illegible]中

産以の一ちと云名目あり
居もいられず立もたられば
狐ぬけ穴の穴ちに隠れて
如に乃水よりと三ケ月
重之の奇しかて付強る紀ちハ
月あり
碁打双ふ將棋ぐはす
溪ちてきさひとれの弱ちハ
老用ありはちるぐ武自ハ
不審ざあり可立まじ理ハ
年間可知未到二路道
はのふ新へいとかそ氏
角ら濱の合戦あり

十十八八おうあれ
ふ角夏法ふ紀ハ
ひの緑や狐ぶるいもむ
ひりふ法ハいもしあり
はくなとふ汁ハぎく
山ふ花ひのふりくハ法ふ
ハやぶ物武られハあこ頭
あくれよあくこと云事あり
あの庭ふも武ハたうわ
約ふくわてよふぶと具
すくれあひ法や虎ぐ敬ん
蒲ふはりてくりへ
鉢も咲ち武ふかとう空

山王ありて海の上八町ばかり
遠かにこの山猿ぐつわ
猿ぐつわ山王の上より猿ぐつわ
引出し強くかけうがけうれ
ひみこの前をぐつわ
海いまだ深やこがれ惟喬
れたのぶとと光秀
京都より天王寺堺付
大師堂八町南一里あまり
文選やう文句無やうげて
文選八巻の昭明太子文句天台
大師ゆゑ和尚ゆりうんかん底ふ
てはかの弘法大師と天台大師

廣人てたり里ばかり
年ばかり山りつ[illegible]里さて
[illegible]ばかりよ年寿石[illegible]合わ
[illegible]命かくて[illegible]ばりぶう
き年一ばり
石山ありやもむ日ばをう
京より日ば岩まして一里石山
上里あ[illegible]ばりあり
今[illegible]ばくあやきあく[illegible]
海うちのこぶり[illegible]
これ用付へば[illegible]
あ海ゆあ今八[illegible]
[illegible]ばけばてんばる[illegible]

こまりハかゝ庵とうりあり
ぶとゝ黄色ハこハてんのうゝ
あり

男女共ぶけ
山茶白紙ゝ

ちぶゝ刀ハ
ゝ折てやすいこまの
刀かゝ
折よ刀とハ付ゝ

仏も地獄あひたまふ
ちゞの足地高もむぐれ
山茶白ハ
めゝ

やう中そゝ
ゝ
百万ハ
ゝ
ゝ村の中小檢五年の
のたいこハ平の
あゝ
ゝ
頬ゝ
射ゝ
ゝ

ゆゝとゝ

皆人の的だに入おほせぬよ
名あるをかしくれたる云の大器
鞠の子はいとうつくしあり
以ものぬきぬきとりて
面白よりも島やたこれらん
はるえ称とて人のあそぶ所
いもの月あり
よぶこどりなくこんりとあき
はるれと思ふ藤はなんの事
我門をたゝかぬ宮居のすゝ
むしのこゑ治はす
そのひとうあり
人丸の言葉ありけむまゝ

何川の山ぶきもあ
とがら矢てなるべし振事
頼政の鵺射し矢も仏ふの
きやうじの汁よもぎ汁
雑やきふくくれはさうそ
ふきんとなかとまりのきろ
雑やきハ焼きかけ
まれきんだちのうきれ
ふかあまの大長刀ふる
以前の角のハあんのうた
きんたちたくされ事あるハ
このけやうの因云あり
宵久はまふきんとなやする

婦人の肩をも紙にあり舊
瓔珞の珠数八ゆるし給へし
赤川あまる人ハ又えんすゝめ
これや茶摘のそこ川嫌れ
名水の茶わそへ底波やりや
ゐくそこに念紙のよゑやつをし
となり
庵の宛とりなふり出之
以りと子の火喰竹の絵
とる浴女の釜でたゞぞ
家氏来こみ訪し浴なり
せむづてせん紙留尤し工逢
あれ物ま一衣氣堂も、かゆく

せぶふ傍世ご每や待らん
我びどにあれて浴業あり世を
の衣と以人ハ乳紙せこにあれ之
あやもやはても雖ふかさぬ
これ無罪之
はふ神人のるらふれぬる
めらせられて観世とらまへ
観世ハ元来伊賀國服部氏
なりそれハもとより同年之
下女申樂に仍而出の
柏子ふもあそぬ理ゑくで
はむさ古寺のハもる世次
るもはのたる鞁もうこぬなる

に稲がすむ邪あり

砂あり海よりさぐりさぐり海を

二人共わるれんとづむ海橋より

邪橋はすかるすかるれ世の中

二人は邪橋あそびゆめあれ

ちゝあり

ゆるも腰のうぐみこうすき

海はそれなる生まれきこゆる新よに

乃ぞうれてうこうこの八橋の下

あびすうひ川と云物語にあり

念仏ドあるよぬれくあり

東海道名所八橋

伊勢宰人やうくれあうれ

世あこと芝と付うう

紅葉もあり

うの暦あり

世小町あるあ笠蓋と云物

暦よあるさ中式書に多く

ゆざり小ぶしにそれるぶ

新蒲こぐ二王れ肩に乗上り

名の墓やあるあ西門の間

小法師ぐ名れ墓成元に上る

寛政四人はこ、あいも世び

玄蕃頭

級八屋あり井れあよ玄蕃

玄蕃頭ちよれ連歌あり

やうさん坊の遺れし嘆しさ
八幡山の東北坊あり
かきうんそう是八ヲそでら
金龍寺
みちりさけさも紬は絲
金龍寺よりすぐれたきやあんあり
神八ヲ社あり
のすがふ
作蒔うらそ拂やうさん
清り清水ちやうもん寺に公然
溪寺やあらか山寺
清りうの試御よりうの試御

うり山寺人形べし
ようれ法御八ヲ
いうあれ八幡の寺に公然
大豆の形うあり長沼
うめよりうそ
廿日あまり八人高も世代
金龍寺
山紙八ヲ
布施紙屋
毛者の毛紙屋あり
とりひよ
たとあり
思ふ

雲龍そ

山人の菊よ花氏おり濃て
雲龍そ上てくれまこあり
おの度あまこやうすむ遠美
忠度の御氏生立の祈あり

みがく義もあるかりそり
我おや氏死ゆはふも人氏きて
いふ祈縁あればとそよ毎よ
恥塚ふハたよあしび儒左ハ云
ふ及ばび仏乃ふも春ハい
まゝあたまふぞうそ上
山也文字あるでも人の法縁
はみがく人あうぬ事やあゆ

[illegible]氏[illegible]者。何とそ引あ[illegible]
入ゆ。おの言ハ云ふたしび連
歌をいうふみあ人の春藏の
うとあるやうにうへば分
いおの[illegible]云ありても[illegible]
ありとて第人の[illegible]れと[illegible]
てありたゝへぶるうもれ
んもまたうへ我おやあく
いそうおうう人さそれ氏に
うと四ふ事れんあゆのハ
人の子也そハあゆまず。詩生
おゆおうりあゆのありやう
のところくく吟味ちく

喉（のど）れ咽喉（うどん）てもいふハせめん
こちどちのあるべしこぷらく
ぎんこあゆへしらとふと
喉（のど）こ種これぞはハふいうち
おやいうちも種こにいうれ
とあり

秋の月あぐしもたゝしきを
月の弁（べん）ハようこ我いうぎて
千年萬歳（せんねんまんざい）ハ遊とみも二百年
千手千眼（せんじゆせんげん）ハむらんおんなんかりかえ
錦つらくなもハ世界（せかい）あり
大（ときは）もかはらいハりし浮れ
人もよ身持（もち）は物ハむずかしい

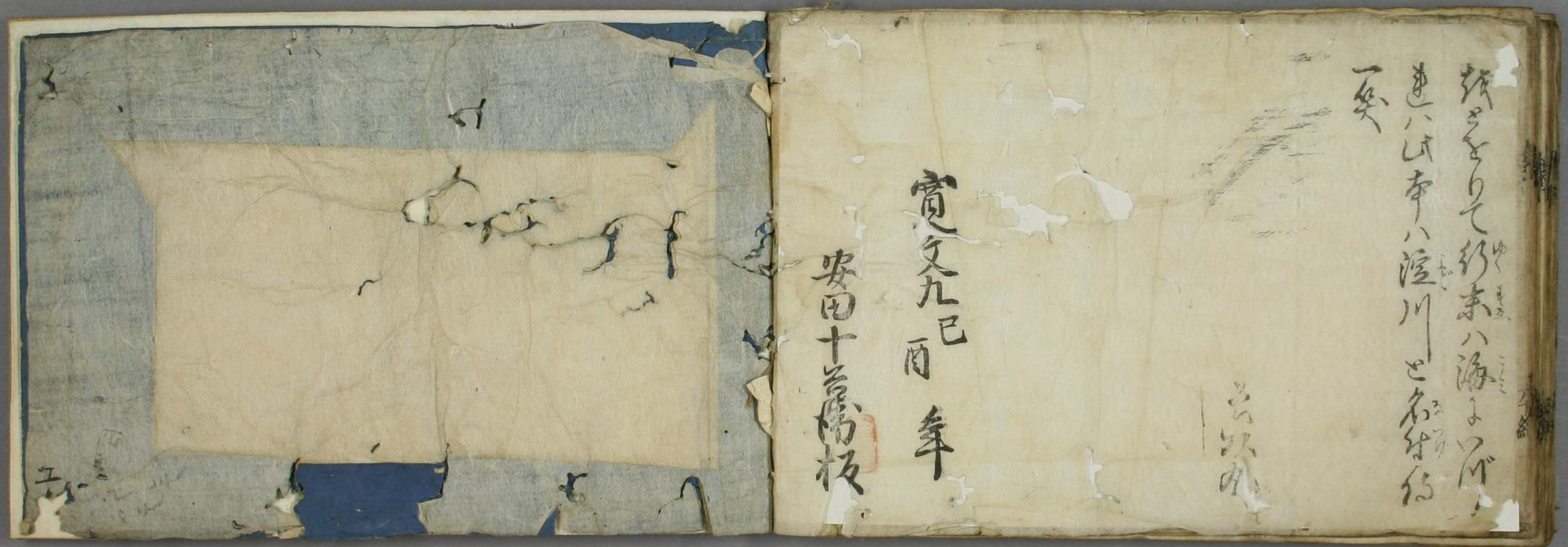
三河ハみさは花（おひ）の名歳（えんさい）
三河からむかしの人のむかし
とゆめまあり
とはかざりてハおびうらん
まきうしは（じまま）まえぬ（かさ）そ
ぬうこなうりれ紙の御茶
詭誉こらびとつかり
花の下ふもまつむし風と

悪雑言（ざうごん）
口髭（ひげ）ハさんちりつなんと捻（ひね）そ
ちりぢりはんずはちおとこぶ
自慢（じまん）ハのハむげ抑へ縁り
耳（みゝ）はあり

一三二と文ごのぞみえんり
雷ありにけるとけあだ紙
産ぶのうぐひすやぶさのよ
産ぶの房ぶよりいあしだを
ようえぶよと云事あり
れいそあまりおいであれ
姉のよれ生ふ家よ女よて
雲ぶのふか泥ふわさけん
女よに産ふ湯ふ
ぬたくぶそうらる人も
めふ産ふれ滝の伝云
産ふるれ湯入ぶ
産ふれ湯入ぶ

産ぶとあり
数ん武ぶ八百にぬきとか
うし産ぶ合ふそうま地
面時用ぶ雷ありる雷も付べくば
茅ぶけうや実ぶ祝尊
うしもぢぶ武茅ぶたぶと
産ぶあり
産ぶ拾ふ
いのまやいのれ年賊天れ
ぶ産ふ武ぶ
産ふ八年賊天で祢八あ事寺
ぶて付ふあり云こ

右宗鑑の天満宮の石句は
あづま人今はじめて見侍る事
なれども八雲はきこゆ小事なりの
所もまぎれゆへよりて用ゐ
無言雖言たる小判の詞は付
侍ぬべくそなたの句は
時代のうつり上下の経
八今の代ふるきを思へべうつ
ずる句新こなるべし勝業
小歌うつし山沢よりあり句
なれ変りて三句目の
歌うやうれ特技なる書に
なるまむ計や山崎はそば



就ては行末は海よりの道
迄は市中は渟川と名付
候

寛文九巳酉年

安田十郎右衛門